

大阪ごみを考える通信

NPO 法人 大阪ごみを考える会
<http://osaka-gomi.sakura.ne.jp/>
【連絡先】吹田市江坂町 4-23-7-309 水川方
TEL/FAX (06) 6338-3908
EMAIL : info@osaka-gomi.sakura.ne.jp
【郵便口座】00960-9-25143

2025年度 NO. 2 2025. 7. 31

目 次

1. 第26回通常総会の概要報告

6月14日(土)、第26回通常総会が開かれ、議案はすべて承認可決されました。今年度も、魚アラリサイクル、大阪市が取り組んでいる製品プラのリサイクルの調査及び、2025年4月～10月開催の関西万博での事業系一廃が適正にリサイクルされているかの調査活動など、様々な課題に取り組んで行きます。

2. 「総論賛成・各論？」問題を克服するシリーズ(その2)

容リ協のHPにプラスチック容器包装からパレットができるまでのフロー図があります。今回はこの図を用いて市町村で集められた容器包装プラスチックがパレットになるまでを解説します。

3. 関本さんのコラム

山の話はお休みして、今回は関本さんが関わってこられた自治会の話です。かつて若かった自治会員も年を経ると高齢化が進み、加入者が減るものですが、関本さんの自治会は若い人たちが新たに加入しています。自治会活動を通して地域の方たちに喜んでもらえる成果を得た事例の紹介です。

4. 私の履歴書】(その3) 市民運動と共に

阪野さんは、単なる生協の一職員にとどまらず、同和対策にワーカーズコレクティブを設立したり、東日本大震災での大掛かりなボランティア活動を実践したりと、市民目線で大いに活躍してこられました。

5. 加藤さんのコラム 悲しい数字——12345

この数字の持つ意味は？

世界がどれほど滅亡に近づいているかを象徴的に示す指標は「終末時計」と言われます。核戦争などの危機が高まれば針を進め、危機が遠のけば針を戻すのです。近年、ウクライナ戦争などによる核リスクが高まっていることや深刻化する気候変動が大きく影響しています。今も世界のあちこちで戦争が続き、難民や飢餓を生んでいるのです。

第 26 回通常総会の概要報告

第 26 回通常総会は令和 7 年 6 月 14 日（土）、大阪市福島区のすも一き一事務所で開催され、下記事項が承認可決されましたので、その概要を報告します。

記

1. 令和 6 年度事業報告

実施された主な事業は次の通り

- ① 情報提供事業は、年 6 回の会報発行（令和 6 年度 NO.1～NO.6）とホームページ運営を行った。
- ② 他団体との協働事業として大阪市が参加した「大阪ごみ減量推進会議」は地球環境基金助成事業 4 年目の市民講座を開催したことに伴い本会も協力した。
- ③ 市民派議員との「ごみ問題学習会」事業（2007 年 7 月～）は ZOOM を活用して今年度は 3 回開催され、西宮市、乙訓環境衛生組合（長岡市・向日市・大山崎町で構成）、尾張東部衛生組合（瀬戸市・尾張旭市・長久手市で構成）の委託契約の問題点について深掘りする議論を開始した。
- ④ 東大阪のごみを考える市民の会は当会と協働して容リプラ、廃食用油リサイクルの現場で行われていることを良く知り、総論でなく具体的にな過程で発生している課題をみつけ、それを是正でき得るスキルを磨くことが大切と気づき、実行することにした。
- ⑤ 大阪府の魚アヲは経営主体が小島養殖から埼玉の三幾飼料に代わり、当会が関われる課題は代わり、回収業者の不正問題の中で法的問題点に焦点を当てて調査することにして実践した。

2. 令和 6 年度収支報告（単位：円）

【収入の部】

前期繰越	590,051
当期収入 会費	145,000
寄付	0
事業収入	0
計	145,000
合計	735,051

【支出の部】

当期支出 事業費	110,110
管理費	120,555
計	230,655
次期繰越	504,396
合計	735,051

3. 令和 7 年度事業計画

主な事業計画は次の通り

① 情報提供事業

年 6 回の会報発行については、必ずしもごみ問題とは直接関連しない会員の社会活動も紹介する方針を強化し、会員に原稿を依頼する。また、ホームページ及びフェイスブックによる情報発信を行う。

② 市民派議員を中心にした「ごみ問題学習会」を今年度は随時開催し、参加各市議の行政が抱える諸課題の改善に取り組む。

③ 大阪市環境局との協同事業の一つである「大阪ごみ減量推進会議」は 25 年開催されている万博

から排出される事業系一廃が適正に処理されているかの調査活動を中心とする事業を行う。

- ④ 大阪市はプラスチック資源循環法の日玉である製品プラのリサイクルを4月から始めている。ベール解体が二度行われる問題を一度にする改革をした手法である。当会はこの優れた手法の行方を調査する。
- ⑤ 魚アラリサイクル問題については、錦海化成に搬入している回収業者が違法の疑いがある業務を行っている問題の是正に努める。

4. 令和7年度収支予算 (単位：円)

【収入の部】

前期繰越	504,396
当期収入	
会費	135,000
寄付	0
計	135,000
合計	639,396

【支出の部】

当期支出	
事業費	110,000
管理費	130,000
予備費	10,000
計	250,000
次期繰越	389,396
合計	639,396

以上

<文責：水川>

「総論賛成・各論？」問題を克服するシリーズ（その2）

今月号では、容リプラが、行政により「分別基準適合物」になってから、マテリアルリサイクル業者・及びケミカルリサイクル業者に落札されたのち、どうなるかについて図2を見ながら説明することにします。

図2の左側に、「市町村」と書かれた図がありますが、最後のところに「ベール」と書かれています。これは異物を除いた容リプラを針金で縛った約1m四方の立方体で、これが右側のマテリアルリサイクル業者に引き取られるわけです。

ここではベールが解体され、2度目の異物除去工程が始まるのです。図2の右を見ると、3ルートに分かれます。最初は「PE」だけが選別される工程で、2つ目は「PP」だけが選別され、3つめはそれ以外のプラになります。「PE」と「PP」だけが選別されるのは、約半分のこの2つが同じ程度の溶融温度になりパレットにできますが、残りの半分は溶融温度が違うので、インゴットにされてから燃やされる固形燃料になるのです。それなら市町村の段階で「PP」と「PE」だけ選別した方が費用が安くなりますが、市町村にはマテリアルリサイクル業者を選ぶ権限が与えられないのでこんな不合理なことになるのです。ケミカルリサイクル業者が落札すると、約7割のプラが石炭の代わりに鉄鉱石に含まれる酸素を除去してくれるのでケミカルリサイクルと呼ばれ、残りの3割のプラは溶鉱炉に入れませんがマテリアルリサイクルのように他所で燃やされるわけではありません。

(森住 明弘記)

リサイクル探訪

プラスチック製
容器包装編

プラスチック製容器包装から パレットができるまで

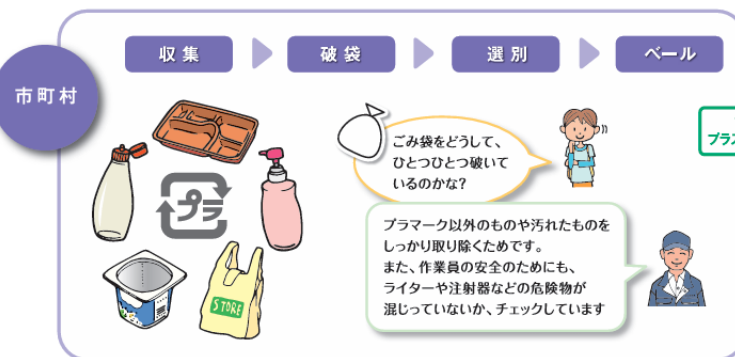


「パレット」って、
なーに？

レジ袋やシャンプーボトルの
リサイクルのゆくえを追いかけてきました。



説明をいただいた
リサイクル会社 Mさん



ほかに、……

ケミカルリサイクル

化学のチカラで、
再資源化する方法



プラスチック製容器包装のリサイクルには、
新しいプラスチック製品の材料として
使われるほかに、化学製品の
原料としての利用方法もあります



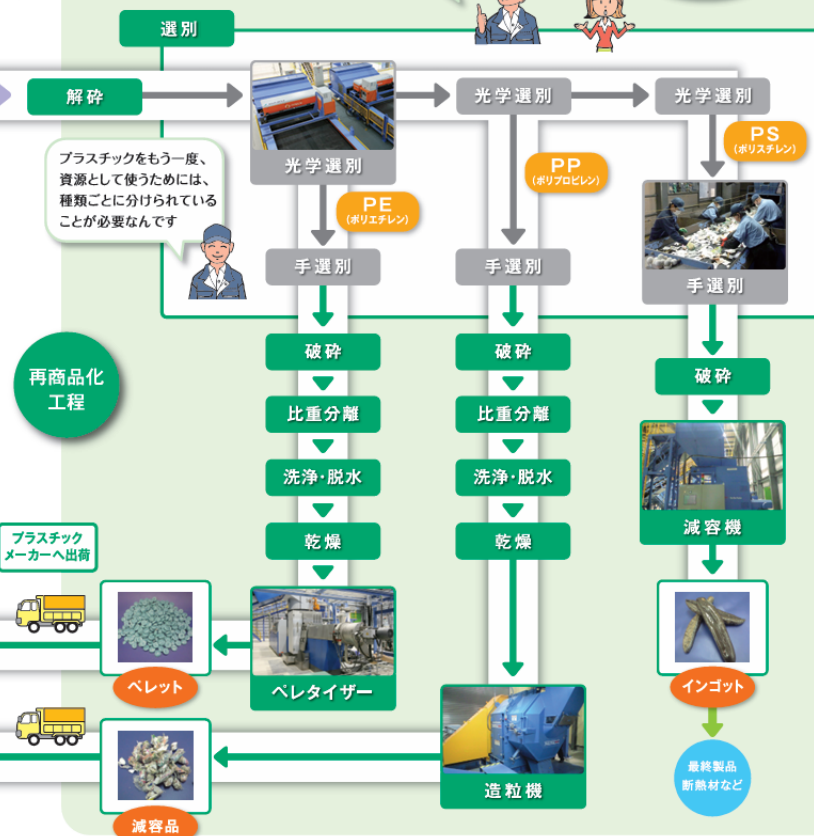
材料リサイクル

マークを見てください。
じつはプラスチックには、
いろいろな種類があるんですよ



本体:PE
キャップ:PP
ラベル:PS

「PE」「PP」って、
プラスチックの
種類のことなのね。



再商品化 工程

再商品化製品 利用工程

市町村 再商品化工程 再商品化製品利用工程

今回は、「ヤマノススメ」をお休みして、森住先生から「書いてみませんか」とのお話を頂いた、私が所属する自治会での活動に少しだけ触れてみたいと思います。

近年、全国的に様々な事情や理由から、自治会の加入者が減少し活動も衰退していつているように感じます。私が今、会長を務める小さな自治会も例外ではありません。実は、会長を務めるのは今期で4度目。他県から大阪府の現住所に転入してからまだ6年半ちょっとの間に、です。

私が所属する自治会が結成されたのは、今から46年前、1979年のこと。当時、高度経済成長期まっただ中で、都市化の進展に伴って宅地が不足し、この問題の改善のために造成されたのが11棟からなる大規模住宅団地と隣接して建てられた戸建住宅群でした。ですが、私の所属する自治会は、団地の自治会とは別に戸建住宅の居住者だけで結成されたものです。

当時の自治会加入率は100%。ほとんどが子育て世代ということもあり、パーベキュー大会で親睦を図るなど、それなりに活動も盛んだったようです。ですが、私が転居してきた時には造成から約40年が経ち、会員のほぼ全ての方が70～80歳代。子供たちは皆独立していて年寄りばかりの自治会でした。

すでに亡くなられた方や転居された方、高齢で活動ができないことを理由に脱会された方もいて活動らしい活動もなく、皆が集まるのは年に一回の総会のみ。加入率も6割程度で、自治会の存在は文字通り名ばかりでした。

こういった事情などがあって、私が転居してきて数か月後に当時の会長から次期会長になってくれなしかとの相談がありました。転入当時、私が50代でもっとも若かったからです。

転入したてで自治会のことはおろか地域のことも全く把握できていない状態だったのですが、会長さんはじめ隣近所の方々がとてもとても良い人達だったこと、以前の居住地で自治会役員の経験があったこと、老齢の母親がいるので私が勤めに出ている間に万が一の時には皆にお世話にならざるを得なかったこと、会長を務めることで手っ取り早く皆さんと知り合いになり地域のことが分かるようになることなどを理由に、会長役を引き受けることにしました。

会長になった以上は、まず私自身が活動しやすい住みよい環境を作ろうと、気になることや出来ることから活動を始めました。

まずは、自治会則の見直し。制定時から40年近くまったく改定が行われていませんでした。そこで今後転入してくるであろう新規会員候補の若い世代の人たちが加入しやすいよう、いろいろな意味で加入や活動に負担を感じる事が無いような会則(自治会)にしようと数年かけて改定しました。

詳細な説明は省きますが、それまでになかった会計則をつけ足して会計内容を明瞭にしたり、コロナ禍が発生して総会すら開けない事態になったため回覧板を通じてだけで総会の開催(決済等)を行えるようにしたりしました。また、個人情報の管理が難しい時代ですが、災害時等の非常時用に家族の名簿や連絡先等を記した名簿も作成できました。私の転入後に子育て世代の転入者が複数あり、幸い加入してもらったことや脱会者の復帰などもあって、今では自治会加入率は8割程度になりました。

色々な活動を細々と行っているのですが、成果が出て住民の皆さんに喜んで頂けたことのひとつに住宅前を走る市道の補修があります。この道は造成当時から一度も補修されておらず、アスファルトは剥げてガタガタ。車が通る度にうるさく、家が揺れたり、マンホールが飛び跳ねて大きな音を立てたりするなど実に酷いものでした。

そこで、市当局に対して道路補修の要望書を出し、何度も交渉して6年近くかけてようやく3分の2ほどを再舗装してもらえました。今では車が通っても静かで家も揺れることがなくなりました。時間がかかったのは私の力不足でもありましたが、市当局の担当者がほぼ毎年のように変わったり、時には申し送りになされずに放置されていた期間があったりと、なかなか大変でした。

今は残りの部分の再舗装と路側帯の設置(歩道がないので子ども達の通学路としてや老人が安心して歩けるように)などを、6年前から引き続き市当局や警察など関係所管にお願い中です。それにしても時間や手間のかかること。こういった愚痴や裏話は、またの機会にできればいいと思っています。

【私の履歴書】（その3） 市民運動と共に

阪野 修（1949 年生まれ）

< 8 > 新しい働き方 = ワーカーズコレクティブ設立 =

週 1 回の会食サービスは同和対策で既に実施されており、当然ながら利用者からの「回数増を」「配食も」との要望と行政の「予算がない」との綱引きが始まる。この時、行政に頼らず地域の元気な高齢者による事業を提案し実現出来た。

地域外の人には部落の人たちのシンドイ所に注目しがちだが、1 人 1 人のエエとも見えてきた時だった。保育所の調理人として働く彼女たちは、同和対策の進捗過程で初めて安定した職業に就いた人たちであり、それも 30 年近くたつと定年が近づいていた。と共に、永年勤め調理人として優秀な技能を獲得していた。ここに注目し、地域の老人向け配食サービス事業の主役にこの人たちを準備した。

特徴は、資金は働く人が出資する労働者協同組合の思想、仕組みを提案した。「まず出資を」との提案には「そんな人おらんで」と散々言われたが、「社長は居てへんねん。みんな話し合っって働くんや」と。給料、仕事の分担など話し合いできめ細かく決めた。食事代は、利用者の声も聴きながら生活保護費での昼食該当金額を参考に 1 食 = 400 円。配達はボランティア募集、献立作成は周辺住民に。そして、船の調理師だった男性も参加し「事業団あやめ」を設立。出資金は 2 万円／年の積み立てとし給料等も自分たちで決めてスタート。

多くの成果があった。メンバーたちは生き生きと働き、配達ボランティアも多数。近隣高級住宅街からの注文もあり利用者は急増。若い世代も参加。解放同盟の他支部での配食事業立ちの上げにも協力出来た。当時の解放運動は公務員になる傾向は強かったが、自らの力を前面に「新しい働き方」を提示できた。

< 9 > 日常の付き合いこそ = 生協の合併 =

超弱小生協は、活動が元気でも事業的には厳しい宿命からは解放されない。最後の生き残り策として、深い関わりのある泉北生協へ合併を申し入れ全面的に受け入れて頂いた。解放運動を基盤で設立された生協とニュータウンで設立された生協との合併が実現した。差別に基づく「合併反対」との意見は聞こえてこなかった。また、解放運動側から見ると、市民運動のコミュニティで成長してきた団体との対等な合併は、いまだに他にはない。多分、それぞれの出自の理念を高く主張しあうと合併まで行きつかなかったのではと振り返る。互いに相手の良いところを評価した上で、「自らの理念」が相手にも理解され受け入れて頂く落としどころを見つけていたからだろう。何も難しい文章のやり取りはなかったが、日々顔を合わせる信頼関係が可能とした。

合併以前からのいくつかの他の生協の幹部たちとの交流もあったが、「解放運動が生協の理念を獲得できたら組織的付き合いも可能」との上目線を感じていた。が、泉北生協の組合員は、日常的な繋がりを踏まえ前向きに考えて頂いた。感謝！感謝！

< 10 > フクシマ在住被災者と共に = 東北震災支援・反原発運動 =

私は 60 歳前に早期退職し社会人向け大学院で 2 年間学んだ。そこも卒業し「さてなにをやるか」と言う時に、東日本大震災がおこり大学院同期生から 1 本の電話。「実家が被災した。気仙沼と大阪を繋ぐ支援活動を」と。

大学院関係者に呼掛けて即支援する会は立ち上がり、国の助成金を 2 年連続で計約 2 千万円ゲット。5 月連休のボランティアバスには、「高校生も東北へ行きたいと言うと。面倒見てくれ！」となりドタバタの出発だったが、気仙沼支援の足掛かりを掴んだ。毎年高校生を気仙沼へ派遣し、気仙沼からは春休みに野球部を招待している。また、社会人は牡蠣のオーナー制の会員となり、時には気仙沼を訪れて

いる。

気仙沼には度々訪れその帰路には、夫婦で東北各地に訪れた。強烈な印象は、原発爆発以降も一日も営業を休まない二本松市の“道の駅ふくしま東和”だった。全国から有機農業者や研究者が集まり、あらゆる食べ物・食器・農地などの被ばく量を徹底的に測定し調査する市民測定所を開設し、フクシマでの安全な農業を追及した。私は3度訪問し深夜まで話し込んだ。

私の疑問は、ヒロシマやナガサキの被爆者と違いフクシマの被爆者がなぜ全国的な反原発運動に流れていないかであった。そして理解したのは、一部の反原発運動の中心メンバーたちがその可能性をふさいでいることだった。爆発後東京での大きな反原発の集会が準備された時、道の駅の関係者も発言予定だった。が、直前にストップがかかり分断状態となった。当面するフクシマでの農業政策に違いがあったとしても、フクシマから避難するか否かに拘わらず現場の最前線で苦闘する人たちの話を聞かない、被災者に寄り添えない反原発運動に疑問を深めた。

3回の訪問でより詳しく理解できたのは、東和町と二本松市の合併と養蚕業の衰退が重なり、村の人々は経験ある低農薬農業を地域の農業とした。そして、農家以外の商店や会社員等も含めた大きな「有機農業研究会」を立ち上げ、道の駅や家畜の糞尿からたい肥の製造、販売を担い、「経営すること」を実践していた。また、新規就農希望者の受け入れも積極的だった。就農希望者を養蚕業の廃業で空いた部屋に受け入れ当面する生活支援を行いながら、農作業の手伝いを通して技術の継承を図り1年ほどで自立できるメドがたった時、地域での不耕作地などを紹介していた。農業経験の乏しい新規就農者にとっても、初期の有効な支えとなる。爆発当日に引っ越した人もいたとか。だから、爆発事故に対しても、国・行政・農協の一方的指示ではなく「自分たちで議論し行動する」と言う別の道を地域として持っていた。そういえば、誌上でも「被ばくゴミの移動」で論争も出来た。フロントとして統一見解を求めず、多様な意見を出し合うことに重きを置かれ感謝。後日、読者から「ごみを引き受けますとの文書にホッとした」との声も届いた。

追加的に言えば、津波で海岸に高く積み上げられた車両はどこの消えたのだろうか。数年は野ざらしで放射能をさんざん被っていたが、いつしか短期間ですべてが撤去されていた。全国の自動車解体業社やアジアなどに流れたと想像するが、各地の作業員は放射能の危険性に全く気付かず解体作業を続けていたのではと心配する。被災した車の片付けが全国的に大きな話題にならなかったことは、今も理解に苦しむ。

< 1 1 > 出戻り職員として = 韓国との交流 =

生協の合併後、名前も協同組合エスコープ大阪となり私も新生協の本部詰めとなった。出戻りの古参職員として、生協の傍流の仕事が主だった。その一つが、韓国の生協との交流であった。当時、韓国では長らく禁止されていた協同組合が合法化されてあまり時間はたっていなかった。だから、韓国から「協同組合先進国」の日本への視察は多くあった。当然ながら、灘神戸生協のような超大手にも出かけたらしいが、あまりにも大きくてネズミが像の背中に乗っているようで研修にはならなかったらしい。そこで同じ規模のエスコープ大阪を指名された。何回も来日され満足されて元気になられた。そのときのお世話係であった。ある時、日本語教室で「まいど！もうかりまっか！」「ボチボチでんな」の大合唱が大受けした。通訳の青年が長老たちの前では頑なに禁煙する姿には「韓国は儒教の国」との言葉に少しは納得した。

私も韓国を一度訪問した。組合員が多く在住する下町もぶらりと散歩したが、家屋や商店が密集しており人と人の関係性が非常に近いと感じた。日本の生協ように商品政策への共感度だけの繋がりだけではなく、宗教的要素や日本で言う町内会的要素も重なっているかもと感じた。別の機会には、韓国の生協の躍進と民主勢力の関係性も非常に近いと感じた。

今年 1 月のアメリカの科学雑誌の発表によれば、人類の終末時計は 89 秒となり、過去最少となったという。終末時間を見ながら、人類は、何をしているのだろうか、世界の人々は考えこむに違いない。失業や病気で、あるいはまた、自然災害で世界中の人々が苦しんでいるというのに、なぜ人間は互いの殺し合いをやめないのだろうか。戦争は肉親を奪い、仕事を奪い、生活基盤を破壊して、後には瓦礫以外に何も残さないというのに。

戦争のたびに難民は増えていく。50 年前、1975 年の難民は 240 万人だった。しかし、1990 年には 1490 万人となり、2025 年 4 月現在では、1 億 2210 万人になっている。さらに気候変動が追い打ちをかけている。

その対策は寂しい限りだ。国連難民高等弁務官事務所の 2019 年度の年間予算は 86 億ドルで、世界の軍事費の 0.35% でしかなかった。

目を転じて、18 歳以下で危険・有害な労働に従事している世界の子どもたちを見ると、2020 年時点で、1 億 6000 万人。問題解決に当たっているユニセフの 2019 年度の年間事業予算は 56 億ドルだった。世界の軍事費のおよそ 0.2%。

そして、学校に通っていない子どもの数は 2018 年の統計では 2 億 5840 万人。その他、兵士にされた子どもの数は、2025 年では 25 万人という。

そして、国連 5 機関が発表した世界の飢餓人口は、2023 年度で 7 億 5700 万人。これを担当する国連世界食糧計画（WFP）の 2019 年度の予算は、80 億ドルで 0.35%。これら以外に国際社会が課題とすべき問題は山積しているが、軍事予算の雀の涙しかない。

また世界のホームレス人口は、1 億人以上と言われる。アメリカのホームレス人口は 2024 年 1 月現在、77 万 1480 万人、そのうち退役軍人は正確に調査されていないが、全米で約 20 万人いると推定されている。男子のホームレスの 3 人に一人が退役軍人と見られ、3.8 万人もいる。戦争自身がこれらの難題を日々、生み出し悪化させている。

世界の失業者は 2022 年現在、2 億 500 万人に上っている。2025 年の世界の失業率は 5% で、若者（15～24 歳）の失業率は 12%。2025 年の ILO の発表によれば、世界の労働力の 7% にあたる 2 億 4000 万人が極度の労働貧困（1 日 2.15 米ドル以下で生活する人々）の中にいる。

しかし、世界では戦争準備の軍事費は右肩上がりに増えていっている。2024 年度の世界の軍事費は 2 兆 7180 億ドル。前年よりも 9.4% も増加し、東西冷戦終結以降、最大の伸びとなっているという。ちなみに日本の軍事費は 8 兆 3700 億円。

先進国による武器輸出は 87% で、うち 81% が 5 安全保障常任理事国によるもので、50% がアメリカ。そのうち 68% が途上国へ輸出されている。

世界の軍事費のすべてを児童労働者に、失業者とホームレスの人に、難民に使えば、たちどころに問題は解決するというのに。

12345。このゴロの悪い数字は、人類がもつ核弾頭数です。今回は数字の羅列です。地獄へ急速度に突進を続けるわが人類の姿です。